

浦高創立120周年に向け!

●一般財団 県立浦和高等学校同窓会奨学財団!

今日の午後3時から、浦和ロイヤルパインズホテルにおいて「平成25年度 浦和高校同窓会・総会」が開催され、約280名の会員が参加しました。



今回、春日部地区浦高会からは6名が参加し、同期の25回生(昭和48年卒)は2年後(浦高創立120周年)の記念同窓会で総会幹事を務める予定

があり、世話人の8名も参加して受付【写真①】から丹念に観察させていただきました。

開会では、岡村幸四郎・副会長(23期)が、「今回の当番23回生は、昭和43年から46年までを過ごしましたが、70年安保と大学紛争の時代であり、東大紛争の影響で東大受験中止、大坂万博、三島由紀夫事件など激動の時代でありました。そんな時代を過ごした同期が今回130名参加させていただいています。旧交を温めさせていただきながら、本日の第二部の講演、第三部の懇親会を企画・進行を担当させていただきます。お楽しみにいただき、総会の開会のご挨拶とさせていただきます。」

続いて川野幸夫・会長(13期)のご挨拶。

「本日、事務局からのお知らせでございますように、今年は東大合格をはじめ多くの大学入試で優秀な成績を修めてくれました。3月で退任されました関根郁夫校長先生の『三兎を追え』という学業、部活、学校行事に全力をあげるといふ生徒と先生方の形が成就したものと感謝申し上げます。日本経済は失われた20年と言われますように低迷し、国民の財布は減り続けており消費が低迷しております。そうした中で、望んでいる学校に進めないという子ども達も増えております。私が理事長を務める川野小児医学奨学財団では20名中8名が浦高卒業生という状況であります。グローバル社会の中でタフに活躍できるリーダーたるべき人材を育成する学校として浦高の存在意義があると考えており、私たち同窓会として本日の議題にもございますが、創立120周年の記念事業として奨学財団の設立をお願いしたいと考えております。さらに4月から着任された杉山校長の応援団になりたいと存じます。」



続いて杉山剛士・第29代浦高校長のご挨拶があり、議事に入りました。

*

【議事】 ※議事はすべて承認されました。

1. 平成24年度事業報告及び決算の承認について
⇒総会、理事会、常任理事会、奨学金制度検討委員会、知的財産委員会などの会議、浦高百年の森づくり、麗和セミナーなどの活動。

⇒一般会計と森会計合計で収入24百万円余、支出1千万円余、正味財産1億円余

2. 一般財団法人県立浦和高等学校同窓会奨学財団の設立について

(1) 奨学金の目的

⇒在校生及び卒業生で成績優秀かつ向学心を有する者に対して、奨学金を貸付及び給付することを目的とする。特長としては、経済的理由で勉学・進学が困難な者の支援とともに、グローバル社会で活躍し得る人材の育成という視点で実施する。

(2) 奨学金の内容

⇒在校生向け支給年間枠130万円

⇒海外留学及び卒業生向け貸与年間枠250万円

(3) 募金目標額 5千万円

⇒同窓会特定資産から基本財産、運営資金、奨学金財源に29百万円出資する。

(4) 設立行程案

⇒総会決議後、公証人役場で定款の承認を受ける。

⇒法務局で設立登記を行う。

⇒来年4月を目途に公益財団への手続きを進める。

⇒税控除ができるようにしてから寄付を募る。

3. 一般財団法人県立浦和高等学校同窓会奨学財団定款について

⇒設立時理事長に川野会長をお願いし、同窓会、学校職員、PTA役員、後援会役員から役員、評議員を選任する。

4. 平成25年度事業計画及び予算案について

⇒例年と同様の事業とするが、奨学財団への出資を29百万円とするため収入39百万円余、支出41百万円余の予算とする。

⇒残資産は66百万円余となる。

5. 役員の補充選任について

⇒顧問と理事4人がご逝去され、新役員3人をお願いする。

*

約1時間15分にわたる総会は全議案が承認され終了しましたが、110周年の『百年の森づくり』に続き、120周年は『グローバル社会で活躍し得る人材づくり』という大きな軸ができました。改めて浦高同窓会の皆様の熱さを感じています。